



幼保小連携の充実を図るための取組

実践！園児と児童との交流活動

【仙台市立広瀬小学校】

広瀬小学校の1年生（3クラス）は、1クラス1園での交流活動を、年に複数回行っています。始めのころは、園児よりも緊張している様子でしたが、回を重ねるにつれて仲良くなり、「○○ちゃんは、この遊びをしたら喜ぶかな」と工夫して考えたり、思いやりをもって接したりする児童が多く見られるようになりました。

【交流活動をした保育園の先生から】

今年度、1年生と年長児の交流活動を5回行いました。来るたびに成長している1年生の姿を見て、子どもたちは憧れをもち、入学への期待に胸をふくらませています。私たち保育する側も、1年生の姿を見て、年長児の成長をイメージしながら保育するようになりました。



教室に年長児を招待し、1年生の生活や学習について紹介したり体験（鉛筆で線のなぞり書きをするなど）させたりしました。



覚えただけの曲を鍵盤ハーモニカで演奏し、披露しました。

【仙台市立秋保小学校 馬場小学校 湯元小学校】

秋保地区の小学校は、様々な機会を活用し、3校で連携した取組を行っています。3校の1年生は、学校生活に少し慣れた6月に、一緒にあきう幼稚園を訪問しました。小学校で学習したことを披露したり、園児と遊んだりしました。大勢の前で発表することや、遊びのリーダーシップをとることが、よい経験となっています。

【交流活動をした幼稚園の先生から】

1年生の発表を見て、「ぼくもできるよ！」と意欲を見せる子どもの姿がありました。このような機会をつくったからこそ見取ることができた子どもの姿でした。就学への意欲をどのように伸ばせばよいか、考えるきっかけにもなります。

園児・児童との交流活動は…

互いにとって意味のある活動となることが大切です。互惠性のある活動にするためには、幼保小の先生同士で活動を計画することや、子どもが何をして何を学んだかよく見取ることなどが重要となります。交流活動等を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿*」を共有し、連携を図りましょう。

*平成29年3月幼稚園教育要領等参照